

平成26年 3月

徳嶋靖子 学位論文審査要旨

主 査 尾 崎 米 厚
副主査 吉 岡 伸 一
同 黒 沢 洋 一

主論文

Psychological factors and mortality risk in a rural area of Japan

(日本の農村地域における心理的要因と死亡リスク)

(著者：徳嶋靖子、細田武伸、岡本幹三、黒沢洋一)

平成26年 Yonago Acta medica 掲載予定

参考論文

1. 看護学生の思いやり行動と自我状態の学年比較

(著者：梅津靖江、吉岡伸一、福田倫子、徳嶋靖子、仁科祐子、原口由紀子、松浦治代、
乗越千枝、矢倉紀子)

平成21年 米子医学雑誌 60巻 192頁～201頁

学 位 論 文 要 旨

Psychological factors and mortality risk in a rural area of Japan

(日本の農村地域における心理的要因と死亡リスク)

生きがいや生活に対する満足感を持っている人、ストレス感が少ない人は死亡リスクが低いという報告がある。しかし、死亡リスクに影響を与える心理的因子として「急いで物事を行う感覚」、「他者からの頼られ感」を検討した報告は少なく、死亡リスクに影響すると考えられる生活習慣や社会的要因を考慮して死亡リスクを検討したコホート研究はほとんどない。これらの課題をふまえて、本研究は長期コホート研究により心理的因子が与える死亡リスクを明らかにすることを目的とした。

方 法

鳥取県日野郡日南町において1989年に設定されたコホート（文部科学省研究費「コホート研究による発がん要因の評価に関する研究」）の対象者である40～79歳の住民4,409人を2006年末まで17.6年間追跡し、追跡開始後5年以内の死亡者を除いた4,182人を分析対象とした。ベースライン時に調査した健康と生活習慣に関する自記式質問票の項目の中から、心理的因子として「生きがい」、「ストレス」、「仕事を急ぐ感覚」、「他者からの頼られ感」、「人生に対する満足感」の5項目を用いた。分析はベースライン時の対象者の特性について心理的因子別に比較を行い、心理的因子間の相関関係を分析した。さらに、心理的因子と全死亡リスクについて年齢、既往歴、生活習慣（喫煙、飲酒、運動、睡眠時間、朝食摂取、BMI）、学歴、職業、婚姻歴を調整してCox比例ハザードモデルを用いて生存分析をした。分析にはIBM SPSS Statistics Ver. 19を使用した。調査にあたり、対象者に調査目的等を十分に説明し、個別の書面による同意を得た。死亡の情報は総務省の許可のもと死亡個票を閲覧し、転出の情報は町役場より得た。データは個人を特定できないようにすべてコード化して分析に用いた。

結 果

追跡中の死亡者は男性482人、女性309人、計791人であった。ベースライン時の対象者の特性について心理的因子別にみると、5つの心理的因子の中で男女ともに「他者からの頼られ感」のみが年齢の影響を認めなかった。また、男女ともに5つの心理的要因すべてに職業

による影響がみられた。さらに女性では、婚姻状況による影響もみられた。5つの心理的因子間の相関は、男性では「生きがいとストレス」、「ストレスと他者からの頼られ感」、女性では「仕事を急ぐ感覚」と「人生に対する満足感」を除いて有意な相関が認められたが、すべて弱い相関関係であった。生存分析の結果、男性は「他者からの頼られ感」について「いいえ」と答えた者は「ふつう」と答えた者よりも死亡リスクが1.67倍 ($p < 0.05$) と高かった。その他の心理的因子については有意差が認められなかった。

考 察

「他者から頼られているという感覚」を持っていない人ほど死亡リスクが高かったことから、対人関係を保つことが長寿につながり、何らかの役割を持って社会参加することの重要性が示唆された。なお、心理的因子間の相関関係が弱いため、他者から頼られているという感覚は他の心理的因子と独立して死亡リスクに影響を与えていると考えられる。一方、「他者から頼られているという感覚」以外の心理的因子については、先行研究の報告と異なり有意な死亡リスクが認められなかった。この原因として分析時の調整因子や回答肢の分類方法の違いが影響していると考えられる。また、本研究の課題として、ベースライン時の心理的状态による影響を長期間にわたって評価していることから、追跡期間中の変化は考慮していない点があげられる。

結 論

40～79歳を対象とした長期コホート研究により、心理的要因による全死亡リスクを調査した結果、「他者から頼られているという感覚」を持っていない人は全死亡リスクが高くなることが示され、対人関係を保つことが長寿につながり、何らかの役割を持って社会参加することの重要性が示唆された。